

科目区分：芸術文化課程 音楽文化コース

授業科目名：コース初歩学習科目

音楽文化への関心を高める初年次科目

音楽教育講座 井上 洋一

1 授業の目的

音楽文化コースでは1年次に器楽・声楽・音楽デザイン・音楽学などの基本的技術や理論を学び、その後各自の適性や目的に応じて専門的能力を身に付けていく。初年次科目である本授業はその前段階として入学後間もない新入生に対し、音楽文化全般についてのイメージを把握させ、今後の課程科目の履修や音楽文化に関する研究に必要な基本的知識・スキル・態度を習得させることを目的としている。

2 授業の到達目標

- (1) 音楽文化に関する基礎的知識や習得すべき技能は何なのか把握する。
- (2) 音楽文化に関する研究方法を理解する。
- (3) 音楽文化に関する研究において、目的意識を持つことができる。

3 授業の概要

本授業は、音楽全般や音楽文化について知り、音楽文化の担い手として、自分にとって何が必要なのかに気付くことから始める。そのために、各自がどのようにして音楽と出合いかわりをもってきたのか、各々の言葉で発表する。

次に、音楽研究に必要な技能習得のために「音楽を探す」「音楽をつくる」「音楽を伝える」方法について演習を行う。

また、地域の音楽文化活動については、学外で行われている教育・文化団体等での活動を実際に見たり体験したりしながら、その意義を考察する。

後半は、教科書に指定した「オドロキ!納得!ことばの学校 音楽用語ものしり事典」(久保田慶一編著)を分担して要約し発表を行う。これは文献研究のまとめ方の学習を意図したものである。

4 授業の実際

- (1) 授業者の専門分野を生かした授業計画の立案
本授業は、音楽教育講座所属教員が年度ごとに輪番で担当している。DPを踏まえた授業目的については大きな差異はないが、各教員の専門分野を生かしながら音楽文化へのアプローチや学生へのガイダンスを行っている。

今年度は、授業者の専門である音楽デザイン分野から授業スケジュールを立案した。特に音楽研

究に必要な技能習得のための演習では「音楽情報」を核として「音楽情報」の探索・作成・伝達の演習を実施した。

以下が、授業スケジュールと各回の内容である。

回	内 容
1	オリエンテーション 授業の目的・概要説明
2	なぜ音楽文化を学ぶのか ～教員からの提案と討論～
3	私と音楽① 学生による発表と討論
4	私と音楽② 学生による発表と討論
5	私と音楽③ 学生による発表と討論
6	専門分野への基礎演習①音楽情報の探索方法
7	専門分野への基礎演習②音楽情報の作成方法
8	専門分野への基礎演習③ 音楽情報の発信・伝達方法
9	地域の音楽文化活動① 音楽教育の現場 (フィールドワーク)
10	地域の音楽文化活動② 音楽文化活動の現場 (フィールドワーク)
11	音楽と研究① 文献の要約と発表
12	音楽と研究② 文献の要約と発表
13	音楽と研究③ 文献の要約と発表
14	音楽と研究④ 文献の要約と発表
15	まとめ 授業の振り返りとレポート作成

- (2) 「Moodle」の活用

授業時間外の自宅学習を促進するため、さらに、音楽情報を伝達・発信するスキルを身に付けるために、LMSである「Moodle」のコースを開設して、教材の提示・課題配信と回収を行った。

Moodle上では音声や動画のストリーミング再生が可能であるため、学生の発表はすべてMoodleにアップロードした。これは学生が自身の発表の様子を見直したり、他の受講生の発表を参考にしたりするうえで有効であったようだ。また、欠席した場合の授業内容の把握にも役立った。

- (3) 教室外での学習 (フィールドワーク)

明確な教員志望で音楽文化コースに入学してくる学生は少数である。ほとんどが学校教員を意識しながらも、自分の音楽の技能を卒業後にどう活かせるか認識できず、地域の音楽文化に貢献する方法・姿が見えていないのが現実である。そこで地域の音楽文化活動の現場として次の3つのフィールドワークを用意し、実際に参加・体験させた。

- ① 音楽教育の現場
附属小学校低学年の授業参観
- ② 音楽文化活動の現場（その1）
愛媛県合唱連盟主催「愛媛合唱祭」参加
（授業者が指揮をしている伊予銀行合唱団のリハーサルと本番の見学）
- ③ 音楽文化活動の現場（その2）
楽器店主催のチャリティイベントへの参加
（アマチュアバンドが出演するチャリティイベント「Sound Port」に舞台裏のスタッフとして参加）

5 授業評価（アンケートによる授業評価）

授業後に、Moodleのアンケート機能を利用して以下の15項目のアンケートを実施した。記述形式の質問15以外（質問1～14）は、ドロップダウン形式で、次の中から最も近い考えを選択させた。

- 4：そう思う。
- 3：おおよそそう思う。
- 2：あまり思わない。
- 1：まったく思わない。

- 1 初回に示されたシラバスや計画にそった授業内容であった。
- 2 初年次科目として「コース初歩学習」を学ぶ意味が理解できた。
- 3 各回の授業のねらいや内容が理解できた。
- 4 教員による提案・資料提示や説明はわかりやすかった。
- 5 授業の計画（発表や課題の分担等）は適当であった。
- 6 学生による「私と音楽」の各発表は役にたった。
- 7 専門分野への基礎演習①音楽情報の探索方法を学んで、必要なスキルが身についた。
- 8 専門分野への基礎演習②音楽情報の作成方法を学んで、必要なスキルが身についた。
- 9 専門分野への基礎演習③音楽情報の発信・伝達方法を学んで必要なスキルが身についた。
- 10 地域の音楽文化活動①音楽教育の現場（附属小学校訪問）は役にたった。
- 11 地域の音楽文化活動②音楽文化活動の現場（愛媛合唱祭、Sound Port）は役に立った。
- 12 音楽と研究（文献の要約と発表）では、この授業で学んだことを生かして発表できた。
- 13 「コース初歩学習」を学んで、大学での学びたいこと、やりたいことがわかってきた。
- 14 「コース初歩学習」は、大学卒業後の進路の参考になった。
- 15 授業全体を通してよかったところ、疑問・質問、改善したらよいところや自由な感想など（自由記述）

質問1～14はその意図から次の表のように区分で

きる。次の表は、各質問の回答者数と平均である。

区分	質問	4	3	2	1	平均
計画目的	1	6	3	0	0	3.67
	2	5	4	0	0	3.56
目標説明	3	5	4	0	0	3.56
	4	7	2	0	0	3.78
	5	8	1	0	0	3.89
知識理解 技能習得	6	5	3	1	0	3.44
	7	7	2	0	0	3.78
	8	7	2	0	0	3.78
	9	6	3	0	0	3.67
	10	9	0	0	0	4.00
	11	7	2	0	0	3.78
学習の成果 今後の意欲	12	4	3	2	0	3.22
	13	4	4	1	0	3.34
	14	3	5	1	0	3.22

（提出9名 受講生11名 回収率82%）

6 総括（考察と今後の課題）

各回の授業の目標・教員の説明等については、概ねよい評価が得られた。学生による発表計画や分担も適当であったと思われる。

本授業の中心となる知識理解・技能習得に関する内容で最も高い評価を得たのが「附属小学校の授業見学」次いで「愛媛合唱祭・Sound Portへの参加」である。フィールドワークを通して、教育現場における教師と子ども、ステージ裏の指揮者やピアニスト、スタッフ等の姿は大きな影響を与えたようだ。自由記述に「音楽文化活動の現場はとても勉強になりました。この授業で一番印象に残りました。」という回答があった。

授業の成果については、「あまり思わない」という回答が若干あるが、これは自分の発表が思うようにいかなかったという反省がこめられている。自由記述には「いろんな方向から音楽をみることでできてよかった。」「この授業を通して将来やりたいことが見えてきました。」「音楽について、深く考えるきっかけにもなったし、大学で学びたいことの再確認ができてよかったです。」など、学習の成果を今後に生かしたいという前向きな記述が多数あった。DPとの関連を踏まえて、受講生の今後の履修科目の選択状況、卒業研究の分野、進路等も追跡調査してみたい。